

群馬県環境森林部自然環境課

「良好な自然環境を有する地域学術調査報告書」（藤原地域武尊山麓）

当該地域の地形・地質、植物相ならびに動物相に関する調査報告（2013年12月）

以下は、その要点の抜粋（清水）

1. 地域の概況

- (1) 調査地域は利根川左岸のみなかみ町で、利根川、檜俣川、湯の小屋沢川、手小屋沢、武尊川に囲まれている。手小屋沢、奈倉沢、武尊川は武尊火山の放射谷である。放射谷の間を放射尾根が北又は北西に延びている。特に、水上高原スキー場の東の尾根は主要な放射状尾根の1つで、末端部に幅が最大500mを越える平坦面が見られる。この平坦面は溶岩流の原面が残存したもので、一部は湿地となっている。この尾根の範囲は、山頂方向を除き高さ100mを越える絶壁で囲まれており、そこには断続的に溶岩が露出している。
- (2) 水上高原ゴルフ場から水上高原スキー場にかけての平坦面は、この地域の地形を特徴づける地形である。ゴルフ場を中心とする平坦面は岩屑なだれの堆積物面である。一帯の平坦面上に多くの小丘が分布しているが、これは流山の可能性がある。
- (3) 過去の上ノ原は一辺3～6km、面積10K㎡を超得る高原の草地で、ワラビやムラサキの産地であったことから、主に低茎のススキ群落（カヤ場）として刈り取り管理されてきたと考えられる。また、藤原地域にはこのほかにも宝台樹山などに草地が点在していたことが知られている。上ノ原の大部分はスキー場、引き続いてゴルフ場としてリゾート開発がなされ、ススキ草原はほとんど失われた。残された11haの草原は2003年より森林塾青水は「入会の森」として刈り取りや火入れ管理を再開し、ススキ草原として維持管理している。
- (4) 上ノ原地区には、今回記録されてグンアイキンボウゲを含め11種の絶滅危惧植物が生育していると考えられる。しかし、絶滅危惧種の中には長期にわたる開拓や管理放棄に加えて盗掘によって大幅に減少したものもあると考えられ、種多様性の量的な回復は見込めても質的な復元は困難であると考えられる。
- (5) 動物分野では合計164科1,073種が記録されたが、中でもガ類（33科747種）、鳥類（31科63種）、哺乳類（17科32種）、コウチュウ類（15科40種）、クモ類（13科26種）、などは多くの種が記録された。この中には絶滅危惧類Ⅰ類のクロゲンゴロウ、ⅠBのクマタカ、コノハズク、同Ⅱ類のヨタカ、トウホクサンショウウオ、ガムシをはじめ、純絶滅危惧種は多数確認されている。

## 2. 地形・地質

- (1) 調査地域の3/4は武尊火山の溶岩や火砕堆積物で覆われている。武尊火山活動後期の水蒸気爆発で発生した岩屑なだれは、上ノ原（現水上高原ゴルフ場一帯）などの平坦面を形成している。
- (2) ゴルフ場の東側の尾根には、無斑晶質安山岩溶岩よりなる尾根が南から北へのびている。山口（1981）はこの尾根に西側に開く弓型の崖があることに注目し、地滑り、または水蒸気爆発があったのではないかと推測し、その時発生した泥流が西に流れ上ノ原泥流堆積物を作ったと考えている。それらの堆積物は岩屑なだれ堆積物であり、その分布や地形から、ゴルフ場の東に水蒸気爆発が起こった可能性は高い。爆発が起こったのは、武尊火山の形成史から考えて、100 万年より古い前期更新世と考えられる。

以 上